

## 令和7年度 第1回阿南市教育振興基本計画等策定委員会

日時：令和7年8月5日（火）15:00～16:40

場所：阿南市役所 6階602・603会議室

出席者：委員：12人中10人出席（別紙委員名簿参照）

教育委員会：坂本教育長、林委員、里美委員、新居委員、岡本委員

市側：安富教育部長、磯部学校教育課長、田上生涯学習課長、清原人権教育課長、篠原スポーツ振興課長、吉村学校給食課長、松本那賀川図書館長、堀科学センター館長、岡部青少年健全育成センター所長、市瀬教育研究所副所長、

事務局：西岡教育総務課長、西崎学校再編推進室長、横手学校再編推進室係長、小笹教育総務課長補佐

傍聴者：1人

### 会次第

1 開会

2 議事

（1）委員長の選任について

（2）教育振興基本計画等策定委員会の役割について

（3）阿南市の教育方針について

（4）阿南市立小・中学校再編実施計画の実施状況について

（5）その他

3 閉会

### 議事（1）委員長の選任について

委員長：大和田委員

委員長代理：織野委員

### 議事（2）教育振興基本計画等策定委員会の役割について

（事務局）

教育振興基本計画等策定委員会の役割について説明

（委員長）

ご説明いただいた内容について、何かご意見、ご質問等ございますか。

質疑無し。

### 議事（3）阿南市の教育方針について

(事務局)

阿南市の教育方針について説明

(委員長)

ご説明いただいた内容について、何かご意見、ご質問等ございますか。

質疑無し。

#### 議事（４）阿南市立小・中学校再編実施計画の実施状況について

(事務局)

阿南市立小・中学校再編実施計画の実施状況について説明

(委員長)

ご説明いただいた内容について、何かご意見、ご質問等ございますか。

(委員)

先ほどの教育委員会の説明で「学び つながり 輝け 自分」ということを踏まえた上で危機感を感じている。AI時代に入りものすごいスピードでAIが進化していき、人間が追いついていけない状況。子どもたちは生まれたときからAI環境下で生活している現状である。AIはもう避けられないので、使いこなすということを前提として、AIを使いこなす「その先」に進まなければならない。AIを使うのは人間であり、子どもたちはどういう育ちをしてAIを活用していくのかということが大切になってくる。特に10歳くらいまでの脳の育ちは生涯にわたって影響を及ぼすという研究結果が多く出ている。

ChatGPTは質問をするとすぐ答えが返ってくるが、問いの後に即座に答えが得られるという環境は、子どもたちの試行錯誤や失敗を通じた学びの機会を損なっていく可能性が大きくなる。ChatGPTに次のようなことを質問してみた。「ある場所でAI教育における子どもたちの教育の在り方について話し合う機会があるが失敗しながら道を切り開いていくという人間の特性や創造性、身体性などAIと共存の観点を踏まえた上でどのように話し合えばよいか。」ChatGPTの回答内容は、「人間とは何か」を問い直す教育の必要性が指摘された。AIを単なる便利なツールとして使用するだけでなく、AIとの共存により人間性や創造力を育む教育が求められる。子どもたちには、AIを適切に活用し、独自の目的に基づいた使い方を選び取れる感性を育てることが重要だと思う。知識と実体験の2つの両方で初めて、子どもたちの脳と身体に本当の学びとして定着していき、AIを「使う脳」をつくっていくことができるようになる。学校教育が飽和状態になってしまっている今、AIを使う側の思考力を養う成長を促進するために、AIを子どもたちがどのように利用するか全体での話し合いと取り決め、地域社会と連携して体験学習の場を設けることなどで、子どもたちに体験学習中心の学びの場を設けていくことが急務と思われる。

(委員長)

AI ChatGPTに尋ねたところこんな答えになるということは、私たちにとってとても考えさせられるようなことである。今後の展開も考えるきっかけになった。

(委員)

私が心配しているのは、AIやタブレットをどの程度使うかということである。成長期にタブレットやスマホを体の近くに置くことで、前頭葉の発育が著しく低下して、記憶力や感情の抑制ができなくなる。どれだけ同じ時間勉強したとしても、それが成果に繋がらないというデータが出てき始めており、成長期の子どもたちに電子機器を近くに置くということがとても心配である。それを大人もわかっていないし、子どもたちはまだ全くわからずに、楽しさだけを求めて使う量がとても気になってしまうので、そういったことを親にも伝えて欲しい。子ども自身が学校で学べる環境を整えて、子ども自身が使い方について考える機会を増やしていただきたいと思う。

(委員長)

電子機器は便利であるが、体験学習や体で感じる感覚など、電子機器と体験学習のバランスを考え、公的機関や親や家族だけではなく、社会全体や市民が支えられるような、そういう仕組み作りも行っていくことが大切なのではないかと考える。

(委員)

学校現場での実態は、AIに関する教員の研修は後手に回っている現状がある。小学校は毎週木曜日を研修日としているが、阿南市全体を見てもAI等の研修に多く取り組んだという学校は少ない。AIの活用については、子どもたちの方が技術面で進んでいるかもしれない。私もAIに対して非常に危機感をもっている。一部の教員はAIやICTの活用に堪能な方もいるが、その知識や技能が学校全体に広まっていないのが実態である。それを踏まえた上で子どもたちに身に付けさせたい力というのが「主体的・対話的で深い学び」を目指しており、学校現場で取り組んでいる。AIに問いを投げかけて終わりではなく、子どもたち同士で自分や相手の考えを議論させて、それを通じて新たな答えを導き出す力の育成に注力している。地域に出ていく体験学習の重要性を認識しつつ、コロナ収束後は産業や自然との触れ合いを積極的に進める動きがあると思う。

(委員長)

実際に学校の現場でどのようなことになっているのかというようなお話を聞くことができ、貴重なご意見だった。今後どのようなふうに広げていくかというような、発展的なコメントをいただいた。

(委員)

子どもたちからバーチャルの世界で交流し遊ぶ事例が紹介され、電子機器の過度な利用による犯罪・いじめのリスクに対して懸念している。専門的な情報教育の重要性が議論され、「SNSの利用方法を適切に指導する教育環境」が求められている。

先ほどの小規模特認校制度について質問がある。公開抽選は、要件を満たした全員で抽選を行うということか。阿南市内外関係なく、全員で調整を行うということによろしいか。

(事務局)

要件を満たした全員で抽選を行い、阿南市内外関係なく公開抽選を行う。

(委員長)

先ほどバーチャルの世界のアバターを使って活動しているような話もあったが、就学期の生徒や児童にとっても学校側からこのような情報モラル教育の指導や講演を機会があればぜひとも考えていただきたい。私は阿南高専に勤めているが、高専では1年生の段階から情報教育を通じてリテラシーの向上を図っている。具体的には、情報を適切に理解し、活用する能力を身につけさせることを目指し、リテラシーとは何か、どのように活用すべきかを考えさせるような講義を行っている。これからは、小中学校の児童生徒に対して、情報モラル教育を浸透させて、児童生徒と家庭と地域社会と連携して支えていけるようにみんなで考えていくことが本当に大切だと皆さんのご意見から、得られた。

情報機器の使い方についても、児童生徒にお話ができるような時間を設けられないかというご発言もあったが、実際にはどのような状況か。

(委員)

実際に各学校、小中学校で進めている。まず、阿南市教育委員会の方で、「GIGA ワークブック あなん」という教材が各小中学校のタブレットにも入っており、それを使っての授業が実際に各学校で行われている。また、それを使って市内での研究授業が新たに学校教育課の方で計画をされているというふうに聞いている。その点についても教育委員会と連携しながら進めていきたい。

(委員長)

教育現場で実施されていることが、家庭にもうまく伝わっていくことで、学校側と保護者側とのやり取りの中にも認識があった上で、情報モラル教育が進められると非常によいと思う。

学校も市もとてもよく考えてくださっているが、保護者にはまだまだその心配や不安が大きいので、お互いに情報交換ができて安心できるような進め方になっていけると、なおのことありがたいと感じた。

(委員)

SNS やインターネットの使い方は、中学生の間でも非常に大きな問題である。特に、数年前からネット依存やゲーム依存が非常に気になり、県医師会等が主催している研修に参加している。依存症研究の第一人者である国立病院機構久里浜医療センターの樋口進さんのお話を拝聴する機会があった。ネット過剰使用や使用による問題（依存）についてのお話の後、SNS の被害やネット依存への対応について中学校など学校現場でできることはあるかと質問したところ、「学校だけの力では難しい。国をはじめ、あらゆるところがともに取り組まなければならない。」「中学生になってからではなく、幼いときからの環境や教育が大事であり、その段階から子どもに関わっていくことが大切である。」と話された。私もこれまで2件ほど子どもがゲーム依存になっているとの相談を親から受けたことがあるが、どちらも大変深刻な状況に追い込まれてからの相談であった。涙ながらに語る母親のお話を聞くとともに、子どもと話し合っただけでルールを作っていくことや、病院での相談も紹介した。

今、学校での教育は大きく変わってきている。そうした中、次期学習指導要領の作成に関わっている文科省の方からこれからの教育についてお話を聞く機会があった。その中で「インターネットやICT 活用が当然の社会になってきているが、できることであれば、就学前の子どもたちには使わせたくない」と言われたことが印象に残っている。子どもたちの未来がよりよいものとなるようにできることを考えていきたい。

(委員)

私は、ひまわり会館で子どもを育てている母親たちが遊びに来てくれる場所を提供している。そこで、小さいお子さんも来ているが、母親が子どもに母乳をあげながらスマホを触っている様子をよく見かける。子どもは赤ちゃんの時からスマホがある環境で育っているため、昔の子育ての環境と違う。子どもたちには、機械のおもしろさではなくて周りにはこんなおもしろいことがあるんだよと知らせていく場が必要であると思う。母親はスマホを使いながら子育てすることはよくないことと分かっているため、その状況から子どもたちをどのように救っていくのが私たちの課題になると思う。子どもは成長すると理解もできるようになり、動きがあることや体を動かすことが好きになってくるので、お母さんが子どもを連れてきたときには、動きがあったり体を動かしたりする楽しい遊びを多く取り入れたい。このような小さいときの積み重ねをすることによって保育所や幼稚園に入って、保育士さんたちから専門的な環境の中で子どもと関わり保護者も一緒に学んでいってくれればよいのではないかと願っている。

阿南市は子育てに努力している。保育料無償でお母さんも子どもを保育所に預けたら自由に働けるようになる。とても嬉しいことであるが、子どもたちにとって全てよいのかなと最近考えている。できたら子どもが1歳までは、お母さんの元で子育てして、親子の触れ合う時間をしっかりとってもらいたい。保育所での学びも大切であるが、母親や父親の膝の上に乗ったり触れ合ったりすることは子どもたちに安心感や信頼感を与えることにつながる。そのような関わりを続けることで親も子どものことがかわいくて仕方がなくなり、お互いによりよい信頼関係を築くことができる。

(委員長)

深い経験が無いとできないお話だと思った。阿南市の保育料無償について本当に良い制度だと感じた。他に、阿南市として魅力ある教育活動等ございますか。

(事務局)

阿南市では科学センター理科学習を行っている。市内小学校が21校、中学校が8校全ての小中学生が科学センターで理科の授業を行っている。こういった形態で学習活動をしているのは、阿南市と島根県出雲市の2つの自治体しかない。過去には栃木県の真岡市が行っていたが、現在は全国で2つの自治体で理科授業を展開している。

(委員)

皆さんのご意見を聞いて、委員長の方から「考える」というキーワードが出てきたと思う。その「考える」というキーワードで、思い出したのが日曜劇場の御上先生という番組で、御上先生は考えるということを大切に周りの人たちにも「考えてみて」という言葉を投げかけた。その「考えてみて」というのを、今の学校現場でもぜひ生徒たちに広めてほしい。また、我々も考えて、AIに使われるのではなく、考えて、「学び つながり 輝け 自分」という教育理念が皆さんに浸透できるように、今後とも考えていきたいと思う。

(委員)

私は今4年生の息子が吉井小学校に通っている。先ほどの資料説明で通学手段については保護者の負担と責任において行うこととしている。ここが一番の問題点だと思っている。先日のオープ

ンスクールで、参加者のアンケートが小学校のホームページに載っているが、意見が多かったのが、通学支援がないと通うのが難しいという意見である。吉井小学校に在籍している子どもたちの自主性や主体性がある姿を見て、吉井小学校を気に入ってくださったという嬉しい意見もたくさんあったが、保護者自信が送迎するということが負担が大きすぎると思う。行かせたいけど行かせられないという意見が多かった。今回阿南市の方からも予算は断られたと聞いている。教育委員会だけの動きでは、難しいことだとは思っている。バスが出せないのであれば、今ある市のバスに子どものチケットを作ったり割引したり、今ある交通機関でタクシーの相乗りなどをしたりしてほしい。子どもたちが吉井小学校に親の負担なく通えるようなシステムをアイデアを出していただきたい。少しの負担金があってもよいと思う。毎日送迎するとなると仕事をやめなければいけないぐらいの大きな負担になってくる。今の生活を残しつつ吉井小学校に通えるような通学のアイデアを出していただきたい。

#### (事務局)

教育委員会では、学校再編実施計画にも書いてある通り通学については、保護者の負担を求めるということにしている。まずは、吉井小学校で行われる教育内容を充実させて、その魅力を感じていただいた方々がどうしても通わせたいという学校にしていくことが大事なのではないかと考えている。

#### (委員長)

現行では、保護者負担ということでスタートするが、いろんな意見が今後も出てくると思うので、いろんなアイデアを組み入れながら今後、全体的にみんなで考える必要があると思う。

#### (委員)

私は幼児教育に携わっている。今、小中の先生方や保護者の方の話を聞かせていただいて、幼稚園は発達はまだ幼児期なので、AIやICTを使いこなすなど、そのような保育内容までは全然到達できてない。そういうことよりも、子どもたちが直接体験をして、心を動かされるような感動や心を育てるという部分を大切に、日々保育をしてきているところである。先ほどの幼児期から依存の危険があることやSNSなどの教育もしっかり取り組んでいかなければいけないというお話を聞いて、家庭に帰ると家事をしているお母さんが子どもにスマホやタブレットを与えて、それらを見て過ごしているお子さんもいるし、夜遅くまでYouTubeを見て、寝るのが遅くなって朝なかなか起きられなかったり、朝ご飯が食べられなかったりして機嫌が悪く登園してくるお子さんもいる。だからこそ、家庭と幼稚園と一緒に連携しながら、先を見据えた教育を取り組んでいかなければならないんだなと実感した。

#### (委員)

スマホやタブレットやSNSということが話題になっているが、スマホやタブレットは、とてもおもしろいおもちゃだと言われている。持ち出すと手放せないし、それは大人も一緒に自分自身もスマホを忘れてきたりするとドキドキする。連絡が入ってないか心配になったり、情報が知りたいときにすぐ使えないと不安になったりして、持っていることが当たり前で、持たないことが不便になる。それくらい依存性の強い物である。しかし、その中でGIGAスクール構想やICTの活用ということで、活用を推進することが進められているという、相反する部分があるなという

思いもある。支援学校に通う子どもたちは、自分で制御することが難しい子どもたちもたくさんいて、もちろんタブレットの制限やスマホは学校に来たら置いておくというルールにしたり、情報モラルの授業も定期的に行っているが、セーブできる子どもは限られている。学校でその勉強したからといって、トラブルに繋がらないかということやはり繋がっている。トラブルは水面下で起こっていて、気付いたときには大変なことになっているというケースもある。他国では、年齢制限を設け始めていることから、そこには一理あるのかなと思う。本校もいろいろ課題を抱えた生徒も在籍しており、専門家のコンサルティングも受けるが、極端な話、親が持たせない勇気を持つことが大切だと思う。親や大人が監督しきれない時代になり、学校でもなかなかAIやICT教育が進めにくくなっている。一人で遊ぶことが難しい子どもたちもいるが、タブレットを活用すると、それなりの時間を過ごせる現状もある。

私は高校の人権支部長をしているが、今年度の高校生と中学生の集いの中のテーマが「インターネットによる人権侵害」となり、子どもたち自身も課題を持って、誹謗中傷やSNSとの付き合い方、詐欺に巻き込まれないようにするための行動など、自覚をもちながら生活しているんだなと感じた。

#### (委員)

今回、第4期阿南市教育振興基本計画や学校再編実施計画も含めて教育委員会や市の方々が計画を作って考えられていることがたくさんあると思う。PTAでは、一番意見を聞かれることが学校再編についてである。今後どうなっていくのかということをよく聞かれる場合がある。私達は資料をいただいたりこのような場で直接お話をできたりしているので、比較的把握できていると思う。他の方々もわかりやすいように学校再編がどうなっていくのかを動画でまとめたり、YouTube使ったりして知ってもらうことが大切なのではないか。科学センター学習や保育所無償などよいところもたくさんPRしていくことが大切なのではないかと思う。前年度、西条市の勉強会へ参加したときに移住者が日本一になった市の取組を聞き、とにかくPRをしているんな人に知っていただくことが一番大事であると知った。どれだけよい政策をしても、知っていただかないと、なかなか広まっていけないし伝わらない部分があると思う。

#### (事務局)

動画であれば、学校再編で昨年度末、椿町中学校が閉校になり、中学校を閉じるときに、椿町中学校の培ってきた学校文化や地域の歴史を動画で残す取組を行った。それは椿町中学校の閉校式典に参加していただいた方々も関心を持って見ていただいた。これからもそういった動画や広報、ホームページなどでお知らせしていきたいと考えている。

#### (委員)

子どもの本離れについて不安に思っている。もう少し図書館が魅力的になる取組はないかと考える。和歌山県では、図書館とTSUTAYAさんが提携して、カフェと図書館が一体的になっており、その中で子どもたちも遊べる空間を展開している。公共の施設と企業が合致するという乗り越えなければならないことがたくさんあるので、簡単にはいかないことだと思うが、そこに行きたいと思わせることがまず大事である。本が嫌いでも、そこに行くと楽しそう、美味しいカフェがあるなど、そういうところから始めないと、いかにその中のコンテンツを充実したとしても、なかなか人が足を向けないと思う。本離れが起きているというのは確かなので、いかに人がそこに行きたいと思わせるような環境を作ることが大切なのではないかと思う。

## 議事（５）その他について

（委員長）

今日の会議はたくさんの発言や意見交換があり、充実したものになったと思っている。それも一人一人の委員の皆様が自分の中で、今まで考えてこられたものを発信していただいたからだと思う。これからも意見を出し合って阿南市の発展に繋げていきたい。

【閉会】

以上